

桐生繊維業界の実態

昭和59年1月～12月

桐生市繊維振興協会

昭和 59 年 12 月末現在

桐生織維業界の概況

1. 調査対象団体数	21 団体（桐生商工会議所織維部会除く）
2. 産地収入	
	(昨年比較)
(1) 生産高	4 5 6 億 7, 3 3 6 万円 (101.4%)
(2) 加工収入高	2 7 3 億 4, 8 8 0 万円 (92.5%)
(3) 販売高	2 4 5 億 9, 7 4 4 万円 (88.7%)
合計	9 7 6 億 1, 9 6 0 万円 (95.4%)

3. 総組合員数	1, 7 1 6 事業所
4. 総従業員数（家族従業員含）	1 0, 4 4 9 人
5. 一事業所当り従業員数	6.1 人
6. 一事業所当り生産販売加工高	5, 6 8 9 万円
7. その他参考	

	(比較)
54年産地収入	1, 0 7 8 億 1, 1 6 6 万円 (100)
55年	1, 1 7 0 億 6, 3 8 0 万円 (109)
56年	1, 1 1 0 億 8, 7 5 7 万円 (103)
57年	1, 0 8 3 億 3, 0 9 3 万円 (101)
58年	1, 0 2 3 億 6 3 4 万円 (95)

1. 組合員数及び従業員数

所属団体	組合員数 事業所	従業員数					従業員 平均年齢 才
		従業員		家族従業員		計 人	
		男人	女人	男人	女人		
桐生内地織物(協)	369	773	1,230	158	171	2,332	50
桐生織物(協)	(688) 560	363	399	628	927	2,317	47
桐生織物商業(協)	9	33	18	0	0	51	39
桐生織物産地元売(協)	27	95	42	8	17	162	44
両毛輸出織物整染(工)	32	548	281	45	33	907	48
桐生染色(協)	41	225	37	25	16	303	46
桐生繊維製品(協)	59	250	840	31	38	1,159	29
桐生服地(協)	11	110	155	8	5	278	49
桐生糸商組合	24	27	9	4	3	43	—
東日本編レース(工)	44	37	35	46	50	168	46
桐生撚糸(工)	79	32	57	69	73	231	46
桐生婦人子供服製造(協)	9	25	125	13	12	175	27
両毛輸出スカーフ(協)	9	6	7	10	10	33	47
桐生織物整経(協)	101	4	35	101	101	241	55
桐生意匠(協)	47	14	0	19	14	47	47
桐生紋紙(協)	42	25	6	52	24	107	—
東毛ジャカード刺繍(協)	20	32	41	26	31	130	50
桐生刺繍商工業(協)	68	280	500	146	156	1,082	40
桐生金銀糸(協)	13	32	8	0	6	46	41
桐生織物買継商友会	27	8	2	30	26	66	42
群馬県綿スフ織物(工)	125	226	254	39	52	571	40
計	1,716	3,145	4,081	1,458	1,765	10,449	—

注(1) 桐生織物協の組合員数の()の数字は、桐生服地協の11事業所と、群馬県綿・スフ織物(工)の125事業所のうち117事業所、計128事業所を含む。

(2) 桐生糸商組合の場合、組合員24社中5社の計です。

2. 生産，加工高及び受注（出荷）先区分（工業部門）

単位 万円

所 属 団 体	生 産 高	加 工 高	計	昨 年 比 較	県 内	県 外
桐 生 内 地 織 物(協)	923,662	48,614	972,276	96	0	100
桐 生 織 物(協)	1,514,937	-	1,514,937	95	-	-
両毛輸出織物整染(工)	-	518,348	518,348	108	30	70
桐 生 染 色(協)	-	169,152	169,152	100	60	40
桐 生 繊 維 製 品(協)	152,900	1,077,300	1,230,200	84	10	90
桐 生 服 地(協)	410,000	-	410,000	95	0	100
東日本編レース(工)	280,167	-	280,167	103	0	100
桐 生 撚 糸(工)	-	55,321	55,321	73	75	25
桐生婦人子供服製造(協)	58,145	130,307	188,452	110	0	100
桐 生 織 物 整 経(協)	-	35,838	35,838	87	-	-
桐 生 意 匠(協)	26,649	-	26,649	99	74	26
桐 生 紋 紙(協)	46,943	-	46,943	98	91	9
東毛ジャカード刺繡(協)	82,445	-	82,445	109	3	97
桐 生 刺 繡 商 工 業(協)	800,000	700,000	1,500,000	103	0	100
両毛輸出スカーフ(協)	70,000	-	70,000	69	0	100
群馬県綿スフ織物(工)	611,488	-	611,488	127	0	100
計	4,567,336	2,734,880	7,302,216	98	-	-

注：桐生服地（協）の数字は他の組合と重複するため計から除く。

3. 販売高及び出荷先区分（商業部門）

単位 万円

所 属 団 体	販 売 高	昨 年 比 較	桐生市内	県 内	県 外
桐生織物産地元売（協）	862,236	98	0	0	100
桐生織物商業（協）	641,231	71	0	0	100
桐生糸商組合	608,677	-	74	4	22
桐生金銀糸（協）	190,000	95	90	3	7
桐生織物買継商友会	157,600	89	0	0	100
計	2,459,744	89	25	1	74

注：桐生糸商組合は組合員24社中5社分の数字です。

4. 内需向，輸出向区分

単位 万円

所 属 団 体	内 需 向		輸 出 向		計
	金 額	割 合	金 額	割 合	
桐生織物（協）	925,912	61	589,025	39	1,514,937
桐生染色（協）	103,972	61	65,180	39	169,152
桐生織物商業（協）	96,650	15	544,581	85	641,231
桐生繊維製品（協）	1,133,200	92	97,000	8	1,230,200
桐生意匠（協）	20,647	77	6,002	23	26,649
桐生紋紙（協）	34,141	73	12,802	27	46,943
桐生金銀紙（協）	70,000	37	120,000	63	190,000
桐生織物整経（協）	21,008	59	14,830	41	35,838
計	2,405,530	62	1,449,420	38	3,854,950

5. 各団体の取扱品目

団体名	品 目				
	割 合	割 合	割 合	割 合	割 合
桐生内地織物(協)	着 尺	帯 地	服飾工芸	広 巾	
	9	67	5	19	
桐 生 織 物(協)	輸出向け 婦人服地	内需向け 婦人服地	インテリア 資 材	ネクタイ 生 地	そ の 他
	36	18	34	7	5
桐生織物商業(協)	化合織織物	二次製品			
	93	7			
桐生織物産地元売(協)	着 尺	帯 地	服飾工芸	二次製品	そ の 他
	29	55	6	3	7
両毛輸出織物整染(工)	ニ ッ ト	合 織	人 絹	絹	
	50	46	3	1	
桐 生 染 色(協)	レーヨン	合 織	綿 ウール等	絹	
	33	40	17	10	
桐生繊維製品(協)	ブラウス	ワンピース	コ ー ト	そ の 他	
	70	10	5	15	
桐 生 服 地(協)	婦人服地	インテリア 資 材			
	90	10			
桐生糸商組合	生 糸	化合織	綿・スフ	そ の 他	
	20	62	6	12	
東日本編レース(工)	カーテン レ ー ス	そ の 他 インテリア	衣 料 レ ー ス	資 材 そ の 他	
	66	6	13	15	

注：桐生糸商組合は組合員24社中5社分の数字です。

桐生撚糸(Ⅰ)	絹撚糸	人絹撚糸	合繊撚糸		
	27	23	50		
桐生婦人子供服製造(協)	婦人 ブラウス	子供服	スカート	ジャケット	
	92	5	1	2	
両毛輸出スカーフ(協)	ジョウゼット スカーフ				
	100				
桐生織物整経(協)	整経				
	100				
桐生意匠(協)	帯	洋反	インテリア	夜具	着尺 その他
	19	11	21	10	39
桐生紋紙(協)	紋紙				
	100				
東毛ジャカード刺繍(協)	ワッペン	トレーナー	Tシャツ	その他	
	50	30	15	5	
桐生刺繍商工業(協)	婚礼関係	婚礼加工	ブラウス 加工	ハンカチーフ	雑貨
	57	30	7	3	3
桐生金銀糸(協)	金銀糸	関連製品			
	75	25			
桐生織物買継商友会	帯	着尺	染加工品	二次製品	広巾, 服 地その他
	71	6	9	10	4
群馬県綿スフ織物(Ⅰ)	硝子 繊維織物	脱脂綿	ガーゼ	生理用紙 綿その他	婦人服地等
	17	17	20	38	8

6. 生産加工部門の現有設備状況

所属団体	設備名	数量	所属団体	設備名	数量
桐生内地織物(協)	広巾織機	229	桐生燃糸(工)	イタリー式燃糸機	262
	並巾 "	1,933		リング式 "	4
	小巾 "	395		アップワインダー	6
	レピア "	118		その他	114
	計	2,675		計	386
桐生織物(協)	超自動織機スルーザー	90	桐生婦人子供服製造(協)	本縫ミシン	145
	"レピア	440		ロックミシン	43
	自動及び普通織機	3,116		プレス	4
	計	3,646		特殊ミシン	58
両毛輸出織物整染(工)	精練漂白機	98	桐生織物整経(協)	計	250
	乾燥機	145		整経機	129
	染色機	142		糸繰機	10,320
	幅出機	87		計	10,449
	計	472		拡大機	44
桐生染色(協)	染色機(常圧噴射式)	140	桐生意匠(協)	コピー機	12
	"(高圧)"	45		コンピューター	9
	"(汎)"	49		その他	6
	チーズ及チーク	69		計	71
	計	303		ピアノマシン	131
桐生繊維製品(協)	縫製ミシン	1,530	桐生紋紙(協)	裁断機	40
	プレス	100		編機	56
	裁断機	87		ワンパンチ	28
	計	1,717		その他	28
桐生服地(協)	超自動織機	65	桐生刺繍商工業(協)	計	283
	自動"	42		横振ミシン	2,000
	普通"	165		ジャカードミシン	3,550
	手織機	12		計	5,550
	計	284		広巾普通織機	410
東日本編レース工	ラッセル機	158	群馬県綿スフ織物(工)	小巾"	241
東毛ジャカード刺繍(協)	ジャカードミシン	73		計	651

7. 最近の推移（59年10月～60年2月）

所属団体	受注, 引合の状況				販売(加工)単価の状況			
	増	変わらず	下降	前年対比	上昇	変わらず	下降	前年対比
桐生内地織物(協)		○		100		○		100
桐生織物(協)	後半 ○			120			○	90
桐生織物商業(協)								
桐生織物産地元売(協)			○	98			○	98
両毛輸出織物整染(工)		○		100		○		100
桐生染色(協)			○			○		100
桐生繊維製品(協)		○		100		○		100
桐生服地(協)		○		100		○		100
桐生糸商組合								
東日本編レース(工)			○	80			○	80
桐生撚糸(工)			○	88		○		100
桐生婦人子供服製造(協)	○			110			○	
両毛輸出スカーフ(協)	○				○			
桐生織物整経(協)		○		100			○	
桐生意匠(協)		○		100		○		100
桐生紋紙(協)			○			○		100
東毛ジャカード刺繍(協)	○				○			
桐生刺繍商工業(協)		○		100		○		100
桐生金銀糸(協)			○	85			○	85
桐生織物買継商友会			○	90	○			118
群馬県綿スフ織物(工)	○				○			
計	5	7	7	-	4	9	6	-

8. 事業概要（昭和59年1月～12月）

1. 桐生内地織物協同組合

○ 商品，消費者ニーズの変化について

ますます個性化，多様化への傾向が強まっております。

和装のニーズは従来の伝統的な“きもの・帯”を好む層と，新しいファッション感覚の“きもの・帯”を期待する層とのふたつの方向が見られます。従ってメーカーは消費者ニーズに対応する物づくりの体制が求められています。

○ 状況，事業概要

和装を主軸とする当内地織物業界は需要の低迷と商取引の不安定化が強まる情勢の中で苦戦を続けたが，真剣な企画努力により何とか年間の生産高を約97億円，前年比96%の線にとどめました。品種別には帯地が65億円，着尺9億円，服飾工芸品（広巾を含む）が，23億円という区分で，特色商品以外は全般に荷動きが弱く，苦しい経営環境のまま推移しました。当組合としてはこの苦境を乗切るべく4月新年度から新たな役員体制を組み，宣伝販売事業をはじめ各々の事業の見直しを図り，実効の上る内容として意欲的に展開しました。

特に業界の現状分析と将来の方向を決める「産地ビジョン5ヶ年計画」については通産省及び日絹連の指針により特別委員会を設置し，熱意をもってこれを策定しました。また県経営指導室による「産地診断」の事後指導も行い業界の各種重要問題について検討を続けました。

新しい事業としては事業推進委員会の新設と積極的な活動，生産技術委員会としては「機料品とカタログ展」の好機開催，取引宣伝委員会では「繊維総合展」和装部門の新企画による推進，冠婚葬祭とおしゃれの桐生展（東京）など注目されるものとなりました。従来からの求評会，展示会，専門部会活動，青年部活動，また商事部による共同販売事業等々も積極的に推進しました。

○ 今後の課題

現実と即応する組合の体制づくりを新たに考えたいと思います。

技術革新が急速に進展する新時代に対応するため業者の意識高揚と技術設備導入並びに体質強化をすすめたい。組合ビジョン及び産地診断の意図する取引の正常化，需要開拓，新分野の商品づくり，人材養成を各位の英知を集めて前進させていく所存です。なおビジョンのデーターによると組合員は今新鋭設備導入の積極型，設備更新は直ぐにはしないが，生産販売面の現状改善型，止むを得ない事情からの転廃業者の三つの層に分かれております。

組合の執行部としては各々の組合員の方向に対し，最善の配慮をしたいと考えております。また業界全体の問題としての「地場産業振興センター」建設についても，大局的視野からこれを理解し産地振興の活性化の拠点となるようこれが実現に協調していく方針であります。

2. 桐生織物協同組合

。 商品，消費者ニーズの変化について

多品種，短サイクル，少ロット化の傾向は，益々激化しつつある。輸出の場合，現在の主力はジョーゼット，ポイル，オーガンジー等であるが，いづれも従来の規格から脱して変化組織のものであり，カット物が多い。この傾向は当分続くものと思われるが，産地的立場から更に目新しいものの発掘によって需要を喚起することが急務である。内需向けは婦人服地については天然短繊維指向から，漸くフィラメントのフェミニン調に復帰の気配が見え，60年は上昇気運にある。インテリア類は安定した地盤の上であり，堅調の歩みを続けている。

。 状況，事業概要

昭和59年（1月～12月）の出荷高は，綿スフ織機による生産分を含めて輸出向け60億81,155千円，内需向け95億45,489千円，合計156億26,644千円で前年の158億87,234千円に対し1.64%減，仕向地別では，輸出向けが6.44%減，内需向けは1.7%増を示している。

輸出減少の要因は，中近東向けが2億1千万円増にもかかわらずアジア地区4億9,500万円，アフリカ地区2億1千万円，計7億500万円と大巾減が影響している。更には中近東向け商品1㎡当りの平均単価が58年の595円に対し，

59年は563円と商品の高級化に反比例して値下がりしていて、過当競争のきびしさを物語っている。

内需向けは、婦人服地が天然繊維指向にあおられて58年比4億1,340万円余の出荷減、一方地道に成長しつつあるインテリアは42億3,778千円と5億78,773千円の増を示し、総体的には前年比1.64%減に止まった。

。 今後の課題

(1) 輸出向け織物

- ① 中近東依存から脱却してアメリカ、ヨーロッパ、アジア地区輸出の拡大が必要、それにはそれぞれの仕向地別新商品開発が急務。
- ② 受注生産の弱点をカバーするため、計画生産可能な商品を開発して端境期対策を確立する。

(2) 内需向け織物

① 婦人服地

日本でファーストクラスにランクされている婦人服地は、技術研修を徹底して生産可能な事業所を増大させる必要がある。更に36"から44"巾以上にして先進国輸出に振向ける。

② インテリア、その他商品

インテリア類は別としてきんらん、資材、その他あるが、商品分野を拡大し、かつ二次製品化を考え、付加価値を高める。

輸出向け、内需向け共にファッションの先取りをする。それに伴いデザイン研究に積極的に取り組む必要がある。

3. 桐生織物産地元売協同組合

。 商品、消費者ニーズの変化について

最近の呉服業界は少量、高級品化してきている。然し単純な高級品嗜好も頭打ちしてきている。購買層が情報過多時代を迎えて、個性化が強くなりそうした流行の多様化の激しさに対応してゆくための商品づくりが必要と思われる。

。 状況、事業概要

昭和59年の推移をみると概して上半期までは順調（昨年並）に推移してきたが、下半期に入ると当産地の主力製品である帯地部門の袋帯の高級品が苦戦し、デパート及びデパート関係主力問屋の衰退、七五三、成人式、婚礼用品の展示会等も前半を下廻り、返品増加、在庫の増大資金回収の延期、手形の長期化となり、特に関西方面の市況悪化が反映し下半期の業績の不振を招いた。

○ 今後の課題

60年代の企業の生き残り課題に即して廃業や縮少の動きがみられてきており、元売段階では体質改善に取り組み一応の成果がみられるものの、問屋小売店の不振がそのまま元売に響いている。こうした中において産元としては時流の変化に即した積極的展開を進めていくのが、課題と思われる。これについて次の意向を取りまとめた。①新商品、新製品を開発し新規販売ルートに流す計画 ②品作りの段階から流通経路等とタイアップするなど種々のことが考えられる。③昭和60年を業務改革年とし新しいビジョン並びに各企業の体質に合ったプランを企画する。④取扱い問屋の重点的配慮。⑤産地流通機構金融システムの企画。⑥メーカー、産元による取引の改善。⑦流通面多様化の研究。⑧和装品のみでなく新規取引商品の開発。

4. 両毛輸出織物整染工業組合

○ 状況、事業概要

業務実績は昨年同様の経過で推移したが、合織の加工高がわずかながら増加をみた。

事業者数は新たに三企業の加入があり、組合員数32社となった。組合員数の増加に伴い従業員数で65名、加工高は約6%の増加となった。

○ 今後の課題

加工受注の内容が多品種、少ロット、短サイクルの状況下において受注拡大にはメリットある加工技術の開発と、付加価値アップをはかり、得意先のニーズに対応出来るような設備と体質改善を行い有利な加工賃アップをはかって行かなければならない。

5. 桐生染色協同組合

○ 商品，消費者ニーズの変化について

消費者趣向の多様化に伴い，少量，多品種，短サイクルの状態が反映して加工ロットは小口のものが多くなり，素材の種類が増加している。また帯・着尺関係の染色は漸減傾向にある。

○ 状況，事業概要

全般的に輸出及び内需関係共に低調で加工数量は下降気味であった。特に帯，着尺の減少が目立ち，ニット関係も若干減少のまま推移した。

○ 今後の課題

(1) 消費者ニーズの多様化から特殊繊維及び素材の種類が多くなり品質に適合した色合い，風合い，染色，堅ろう度等に仕上げるなど染色技術がますます要求されるようになってきた。

(2) 少量，多品種の時代になって染色加工数量は少ロットとなりロットが小さくなれば，単位当りの加工コストは当然上昇する。これを合理化や技術的にどこまでカバーできるか今後の重要な課題である。

上記事項を解決するためには，人材を確保して技術の向上を図り，また省エネ，省力化の見直し，適正な染色加工賃の確立，情報収集等に一層努めねばならないと考える。

6. 桐生繊維製品協同組合

○ 商品，消費者ニーズの変化について

市場の細分化にともない多品種，少量販売的になってきており，益々個性化が強まり物に対する価値感が大きく変るポイントをとらえた物造りが必至であります。最近ではシンプルな商品が好まれ，素材も細番手・細ゲージ指向的な流れとなってきております。

○ 状況，事業概要

春夏型生産である当地区は，依然少ロット短サイクルが強いられる環境の中で春夏物については比較的順調でありました。特に夏物については追加オーダーで忙しい状況が続きました。

秋冬物については技術力を必要とするハイクラス商品は受注が続き、量販的な商品は生産量が鈍加した状態で推移致しました。大手アパレルからマンションメーカーと広範囲な取引先であるため、技術及び、管理機能等の企業体質により生産効率・収益性は大幅格差が出て来ております。今後組合事業としては、本年度で産振事業が終了となりますが、それらの実績を活用し、総合的生産の体制強化をはかって行きます。

○ 今後の課題

近い将来大きく変わるであろう産業構造と流通変化に対応すべく、従来の外注内職依存型による賃加工基地より脱却して、産地ブランド製品の開発等を通して流通の開拓技術、企画力を強化の上、高付加価値生産の確立と造る技術と売る技術により製販体制への道も切り開くべきかと存じます。

7. 桐生服地協同組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

依然として天然繊維の人気は根強いものがあるが、ヨーロッパにおいては当業界向きのフィラメントものの「フェミニン」調の傾向もみられ、希望をもっている。プリントものの復活も予想される。

○ 状況、事業概要

業界全体としては、前半売上減少となったが、後半ジャカードものが持ち直して微減にとどまった。

組合事業としては、3月に長沢美沙子先生(京王百貨店)による講演会、9月三菱アセテート(株)との原子研究会、11月青年会研修視察事業を行った。定期会合を通じて、情報交換を行うほか、桐生服地業界全体の親睦もはかっている。

○ 今後の課題

他品種、小ロット、短サイクルの受注の環境はますます強まっている。この現状がすぐには変わらないとすれば、これに対応する企業努力が求められよう。

8. 東日本編レース工業組合

○ 状況、事業概要

昨年に比して今年度は全般的に生産減を示している。特にカーテンレース

製品は、昨年の40%減となっている。これは住宅産業の不振が大いに関係している。何故なれば、素材がポリエステルのためである。ポリエステルは洗たくすれば真白となり、個人宅の洗たく機で、何時でもきれいに洗たくが出来るので、買替える必要がない。そのため新規住宅が出来なければ業界は不況とならざるを得ない、衣料関係においても、このところ毎年需要がだんだん減退している傾向にある。レーヨン、ショールも昨年まではまあまあの状態にあったが、今年度は売値も段々安くなっており、生産も減少となっている。

○ 今後の課題

安定成長が定着している現状にある編レース業界では、従来のような量産体制による経営安定を望むことは誠に危険といわざるを得ない。今後は如何にコストの低減を求めるかが大きな課題となろう。従って今後における対応策としては、(1)経営力の強化、(2)事業の協同化、(3)経営資源の強化等が必要であると思われる。

9. 桐生婦人子供服製造協同組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

受注増であるが、若年層の低価格の商品が一般に好まれている。

○ 状況、事業概要

景気回復という事であるが、消費の伸び悩み、価格のダウンが一段と厳しい。

○ 今後の課題

多品種、少ロット、ファッション性の高い厳しい生産条件の中で如何に対応していくかが今後の課題である。モラルアップの養成ユーザーのニーズを的確に握り、このまれる商品造りが必要である。

10. 桐生織物整経協同組合

○ 状況、事業概要

相変らずのドル高、円安基調にありながら、イ・イ戦争のためか、中近東方面への輸出がはかばかしくないので、業界全体も少量かつ小口の受注で、尚かつ値段もきびしくて活気がなく低調である。

内地向けの帯も一般の着物ばなれが進み、消費者の買気があまりないので

ますます少ロットの生産で苦しい状態であります。

11. 桐生意匠協同組合

○ 商品，消費者ニーズの変化について

内需の仕事の変化により仕事量にバラツキが出来た。帯着尺の購買力の減少がそのまま表われて来た。山梨の夜具についても，生活環境の変化でインテリアに方向が変ってきて，桐生産地の仕事量が増えた。

○ 状況，事業概要

去年に引続き輸出関係では，中近東を中心に仕事量は去年より受注があった。そのため桐生産地の内需の減少をカバーすることが出来た。山梨の夜具はインテリアに変化し，仕事量もそちらに移行して低調ではあるが去年同様位には確保できた。

織物全体の変化により各企業にバラツキを生じさせたが，組合総売上はさほど変化はなかった，加工賃の値上げが出来ない状況の中ではよく努力したのではないかと思う。

○ 今後の課題

帯及び内需については，より一層の新製品開発に取り組まなければならないと思う。

輸出，洋反については，組合独自の開発新製品作りとヨーロッパ向等の高級品開発が望まれる。コンピューターの導入により新規な織物が開発されて行く様にしなければならないと思う。

12. 桐生紋紙協同組合

○ 状況，事業概要

輸出物に限り20%位の（前年比）受注増になったが，和装関係の低迷により，小巾物は減少した。広巾（洋反）も平織，ドビー調が主流のため，伸びなやんだ。高速織機の増加により，エンドレスペーパーは前年比10%受注増であった。

13. 桐生刺繡商工業協同組合

○ 商品，消費者ニーズの変化について

婚礼衣裳関係は高級物に変わりやや定着しつつありますので金額的に変らないが、数量的には少なくなって来ました。他種（ブラウス他）製品はやや上昇みなれど金額的に変らず。

○ 状況，事業概要

ブラウス他雑貨系は相変わらず忙しい時期には、非常に忙しく、多頭式ミシンもやや増加したが、時期的な物が多く、値段の競争が激しいが、本年はやや仕事もあり、前年より少々上向きになり、組合員はやや増の様でした。婚礼衣裳関係は上記の様です。

14. 桐生織物買継商友会

○ 商品，消費者ニーズの変化について

2～3年特に変化はなく、希少価値のある手工芸的なものの要求と、デザイン面でファッションデザイナーのマスコミを利用した洋装感覚的なものが発表されたりして居りますが、呉服の伝統を消費者がどこまで理解し、実需に活かせるか疑問であるが、率直に疑問視出来ない処が、今後の課題であると思われます。

○ 状況，事業概要

夏着尺・帯，七五三祝帯は荷動きに時期があるも、その他の商品は特に時期季節感が無く、これも消費者の需要が減り、消費者サイドの販売でなく売手サイドの販売の結果であろうと思われます。

数字の上からも判るとおり前年対比（数年）減であります。織物協同組合と共に集散地に於ける販売会にも参加し、各々が努力しておりますが、今後益々中身の濃い内容を企画してもらい、亦、意見交換をして60年度を頑張りたいと思います。

○ 今後の課題

使用目的がはっきりしている冠婚葬祭向け商品の業界の甘えた姿勢が高価格を生み伝統である着物が「高い……」「買って着られない……」観念を植えつけ、故に常着が主体の当産地の商品はもとより、着物離れをさせた原因であろうと思われます。今後は経営者の業容研究と着物が必要で

あろう催事と業界上げてP. Rがなければ上記の観念と他のレジャー思考から引寄せられないと思う。

15. 群馬県綿スフ織物工業組合

。 商品，消費者ニーズの変化について

- (1) 白十字：衛生材料に関する消費者ニーズは高級化，使用の簡便化であり，多少の値段の上昇は売上げに関係ない。
- (2) 中川産業：最近IC用クロスがだぶついて来たので，受注もやや減少気味，品質水準は一段ときびしくなったことに対応しなければならない。
- (3) 桐生：ファッションの多様化，短サイクル化に対応するため，多角的に新商品開発が必要。

。 状況，事業概要

- (1) 白十字は59年の売上げは前年の16%増，60年の生産量は横ばいと見る。しかし，単価は上昇するから売上げは増加する。
- (2) 中川産業は，59年の売上げは前年の18%増，60年の生産量はやや減少の見込み，理由としては主力商品であるIC用クロスの品質がきびしさを増してきて受注も横ばいである。
- (3) 桐生の絹化繊織物は，前年よりやや上昇するであろう。

。 今後の課題

- (1) 白十字：全国的に競争は激しいが，設備新鋭化し努力しつつあり，労働力も豊富な立地条件と確立した販売ルート網を持ち好調である。本年の残された課題は新商品開発による販路拡大である。
- (2) 中川産業：IC用クロスの受注が減少し，品質のきびしさを増して来ている。この対応としては，今後品質を向上させ，量より質を上げる努力が先決である。
- (3) 桐生絹化合繊織物：輸出，内需共に婦人服地は天然短繊維指向からフィラメントに復帰しつつあり，内需向けは，フェミニン調で上昇見込みであるが，ファッションの先取りが必要。輸出向けは，新商品開発による地区的商品別販路拡大が必要。

16. 両毛輸出スカーフ協同組合

○ 商品，消費者ニーズの変化について

世界中同一商品が売れる恵まれたものだが，反面，相場が荷動きに敏感に反映して上下するので，受注の対応をあやまると利益を上げられないものでもある。又地域的には流行の変遷もはげしく，対ドル価格も出荷量に影響がある様である。

○ 状況，事業概要

年初めは，比較的好調と思われたが，8月以降中近東の出荷が少なくなり特に金糸入りのスカーフの引合は皆無となり，かつて例をみない程の不況に終わった。

○ 今後の課題

前記の特徴をもつ商品なので，一時期経過すれば必ず，好転すると思われるし，出荷量が増大すれば単価も上昇し，好採算が得られる。この事は過去に何回も例があり，組合員は承知していることだが，要は資金面の問題であると思うので組合として備蓄機構を考えられないか検討中である。

17. 東毛ジャカード刺繍協同組合

○ 状況，事業概要

59年度の前半から中盤にかけて生産の流れは非常に良く，業界全体のミシン稼働率も，120%位で良いスタートを切っていた。ただ10月～12月頃にかけて，一般の刺繍は悪くなり，反対に特殊ミシン関係は良く，今年の状態は特に特殊物を中心に動いた傾向が多く，今後もその状態は続くと思います。

○ 今後の課題

設備は高度化し，仕事も多様化していく中で産地という部分から見ても，設備投資より営業力に力を入れないと仕事の減少となります。その営業力も自社の社員教育をして，自社ブランドを作り，自社営業で物を作り販売していかないと今後の生き残りがむずかしい状況になると思います。又，特に産地性を売るには必ず東京に営業所，支店等を持ち，積極的に情報を収集していかないと正しい情報が桐生に届かない事を痛切に感じました。当組合は，

東京に支店を出して東京の営業，情報等がよくわかったので，他組合もぜひ東京に進出してもらいたいと思います。それが桐生の繊維の産地性をアピールすることにつながると思います。

桐生市繊維振興協会会員名簿

団 体 名	代 表 者	所 在 地	電 話
桐生内地織物(協)	白石 太市郎	桐生市永楽町 5-1	43-7171
桐生織物(協)	金子 匡男	" "	43-2511
桐生商工会議所 繊維部	木村 一蔵	" 織姫町 2-5	45-1201
桐生織物商業(協)	木村 市雄	" 永楽町 6-6	22-7567
桐生織物産地元売(協)	木村 一蔵	" "	22-9120
両毛輸出織物整染(工)	朝倉 融	" "	22-2775
桐生染色(協)	丸山 茂	" "	22-9661
桐生繊維製品(協)	栗原 守男	" 仲町三丁目 15-20	43-5115
桐生服地(協)	小林 松	" 永楽町 5-1	43-2511
桐生糸商組合	川村 佐助	" 仲町三丁目 15-6	44-4171
東日本編レース(工)	黒沢 岩雄	" 永楽町 6-6	22-3847
桐生撚糸(工)	坪川 二郎	" "	44-9431
桐生婦人子供服製造(協)	中島 静雄	" 川内町一丁目 47-14	65-7143
両毛輸出スカーフ(協)	古谷 恒	" 浜松町二丁目 8-20	44-1771
桐生織物整経(協)	高久 勇雄	" 永楽町 6-6	22-9184
桐生意匠(協)	柘植 洋二	" "	22-7088
桐生紋紙(協)	高橋 金五郎	" "	22-5854
東毛ジャカード刺繍(協)	朝倉 健太郎	" 新宿三丁目 7-34	43-1166
桐生刺繍商工業(協)	栗原 優介	" 永楽町 6-6	22-7919
桐生金銀糸(協)	今西洋 右	" 新宿三丁目 4-57	22-8539
桐生織物買継商友会	小沢 圭正	" 広沢町二丁目 3125-53	54-0030
群馬県綿スフ織物(工)	松島 武雄	" 永楽町 5-1	43-2511